

令和6年度前期終業式校長講話

令和6年9月30日（月）

おはようございます。校長の鴨志田新一です。

今日は、令和6年度前期の終業式です。本校は、2学期制なので、9月末が前期であり、明日からは後期になります。ということは、1年の半分が終わったことになります。月日の速さを実感しています。

この夏は、記録的な猛暑であり、9月に入っても暑い日が続きました。

昔から、「暑さ寒さも彼岸まで」ということわざがあります。残暑は秋の彼岸、だいたい9月22日ごろまでに治まり、余寒は、春の彼岸、だいたい3月22日ごろまでに和らぐので、それ以降は過ごしやすくなるという言い習わしです。

これは、どのような困難な事態にあっても、やがては終わりが来て乗り越えることができるという意味にも使われています。

今年も、お彼岸の9月22日ごろから急に気温が下がり出しました。自然の摂理はすごいなと感じました。

自然の摂理といえば、この時期に赤い彼岸花、別名、曼珠沙華が咲きます。秋のお彼岸の時期に合わせるように毎年、咲くのですが、今年のような暑さでも、私の家の裏にある見沼たんぼでは、お彼岸の頃に彼岸花が咲き始めていました。

植物も、1年という期間をしっかりと把握しているのかと感心してしまいました。

さて、先ほど、月日の速さを実感していると言いました。

中国の思想家である朱子（しゅし）という人の言葉に次のようなものがあります。

「少年老い易く、学成り難し。一寸の光陰、軽ろんずべからず」

月日の経つのは早く、それに反して学問の研究は、なかなか成し遂げることができない。だから、わずかな時間でも惜しんで、勉強しなければならないと、という意味です。

要は、時間を大切にせず、無駄な時間などないのだということです。

時間を大切にする。そんなことはわかっていると皆さんは思うかもしれませんが。

しかし、スマートフォンをいじているうちに何時間も過ぎてしまったことはありませんか。そのため、時間が過ぎてしまい、睡眠時間を削って、レポートを書いたことはありませんか。

そうなってくると悪循環になり、次の日にも影響してしまいます。

時間は、すべての人に平等に与えられたものです。それを生かすも殺すも、一人一人の行動や心がけ次第です。

時間を大切にすることは、時間を守ることにもつながります。

是非、今一度、自分の生活を振り返ってみてください。

後期は、様々な学校行事などがあります。

体育祭、2年生の修学旅行、看護科のプロジェクト学習発表会、専攻科の看護研究発表会。

看護科では1年生の実習、3年生は2回目の実習もあります。

専攻科1年生も12月から3回の実習があります。

12月には戴帽式もあります。

何かと忙しい日々になりますが、時間を大切に、時間を守って、自分自身をマネジメントしてください。

そして最後に「凡事徹底」 当たり前のことを当たり前にする。

一人ひとりの行動や心がけが、常盤高校の強い集団を作っていきます。

毎回、全校集会で私が話した原稿は、学校のホームページの「校長室より」に掲載してあります。もし、気になったら参考にしてください。

私からは以上です。